

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム百葉二の宮
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	富士宮市北町14番5号
記入者名 (管理者)	大村 三津子
記入日	平成 21年 7月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	理念・行動指針の唱和・理解の為の取り組みは、継続していき、理念に則った実践に向け、取り組んでいきたい
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	地域の方の協力の下に行われた認知症サポート講座を継続して行えればよいと考える
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	散歩時など、地域の方々から声を掛けていただき、たいへん嬉しく思っている
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	行事への参加は今後も継続していきたい 近隣の方々からの理解・協力得られており、たいへん嬉しく思っている また協力できる行司を増やして行きたい(古紙回収・掃除など)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議時、地域型支援センター相談員に来所いただき 百葉二の宮としての地域貢献について話し合いをもっている また災害時の取り組みについて話し合いをもっている	○	地域の高齢者の方々と、もっと接する機会を持っていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を皆で共有している また前回の評価に基づき改善のため努力した	○	評価を改善への道しるべとしたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	百葉二の宮で行われる外出行事や季節の行事、意向などをお知らせすると共に、グループホームの現状について報告し サービスの向上に繋げている 職員会議において意見に対する改善策について話し合いをもっている	○	運営推進会議では、様々な視点からの意見をいただき、サービスの向上に活かせるよう努力していきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症サポーター講座を開催する際にも、行政のバックアップを頂き、資料作成や地域住民への周知などに協力を頂いた 他、随時相談をしている	○	地域密着型の施設として、行政との連携をしっかりと図っていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は知識として学んでいるが、職員全体への周知は出来ていない	○	今後学ぶ機会を設けていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議処遇委員会・法人内研修等で、取り組んでいる	○	事業所内での虐待が見過ごされることのないよう、取り組みを強化していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書の内容について説明し ご理解いただけるよう努めている	○ ご家族様の不安や疑問については、丁寧に解りやすく説明し改善できるよう努めていきたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議・ケアプラン説明時、また家族会などで、利用者様 ご家族様に意見を伺っている	○ ご家族様やご利用者様からの意見を伺う機会を設けてはいるものの、もっともと言いやすい環境づくりを目指したい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りにて、施設での生活の様子や健康状態・金銭の管理に関して報告をしている また随時発行している新聞や家族会において、職員紹介や行事等も報告している その他、電話や面会時には随時報告をしている	○ ご家族様からの率直な意見を伺い、その意見を取り入れ、個々に併せた報告としていきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情やご意見は随時受け入れる姿勢を示している 運営推進会議にはご家族様の代表に必ず参加いただき、意見をいただいている 頂いたご意見等は職員に周知し、運営に反映できるよう心がけている	○ もっと率直な意見を引き出せる環境を作って行きたい また、介護相談員の協力を頂けるよう働きかけて行きたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において、事業所のみならず、法人の経営状況や運営方針等も報告し、それに対しての意見を聞く機会を設けている また日々の申し送り時にも常に意見や提案を聞き、運営に反映させている	○ もっと率直な意見を引き出せる環境を作って行きたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	お客様の体調の変化や、特に夜間帯における緊急時など柔軟に対応している。また外出行事等では、職員配置を多めにするなど、できる限り柔軟な対応を心がけている	○ 緊急時等、併設のデイサービスの職員(看護師を含め)の協力を得ることが出来ている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるべく馴染みの関係の中で生活していただきたいと考えるも、意見の食い違い等で離職を食い止めることは出来ない	○ お客様やご家族様に安心して生活していただけるよう、離職を防いでいけるよう配慮していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上を目指し、法人内で行われる各種研修・意見交換会などに積極的に参加している また未経験者に関しては、毎日の業務の中で知識や技術が修得できるよう、フォローしている	○ 勤務の調整が難しく、全ての職員が参加したい研修に参加できる環境とはなっていない。全職員が参加できる環境を作って行きたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に参加し、合同運動会・新年会・実践発表会・事例検討会・新人研修会などに積極的に参加、他事業所との交流を図り、地域全体でのサービスの質の向上を目指している	○ 他のグループホームの話聞くことによって、自らの現状の確認や見直しに役立てることも多い。今後も交流を持てるよう働きかけて行きたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人として、福利厚生施設など保養所の確保、リフレッシュ休暇制度の導入等を行っている また、精神面での不安を軽減できるよう随時面談を行うなど心がけている	○ 日々の業務の中で休憩時間が思うように取れない 休憩時間の確保に向け業務の見直しを行っていく
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人目標管理を制度として取り入れ、職員が目標を持って業務を遂行していくよう導いている また、資格取得にむけて勉強会の開催など、法人としてバックアップしている	○ 意欲のある職員全員に勉強会への参加を実施できるような環境を作って行きたい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人からの要望も取り入れるよう努めているが、聞き取りが困難なケースが多く、ご家族様の意見や訴えが優先されてしまっている	○ ご本人様の心身の状態を把握するためにはご家族様からの情報が重要になっているが、本人からの要望も聞き取れるよう努めて行きたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学に来ていただいたり、相談の場を多く持つよう努力している また、担当ケアマネージャーや、それまでかかわりのあった介護施設の職員などからの聞き取りも行っている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居のご相談を受けた際、今のご本人様やご家族様の状況を把握し、できる限りの支援を行っている。グループホーム入居がその方にとって最善の方法であるのかを見極め、助言している	○	多方面にわたって助言や情報の提供が出来るよう、情報の収集に努めていきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご相談を受けた際には、本人様やご家族様に施設を見学していただいている。 また、併設のデイサービス利用からはじめてみるなどの提案をさせていただくこともあるが、ご家族様の現状から、困難なケースが多い	○	徐々に馴染める様、宿泊体験などの導入も検討してる
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者様は共に生活を支える仲間であるという意識を持っていただけるよう、生活全般において智恵をいただきながら食事作りに参加していただいたり、季節の行事の準備と一緒にするなど、取り組んでいる。	○	お客様一人ひとり得意とするものを持っている。もっともとその力を引き出せる取り組みを工夫していきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	グループホーム入居後も家族との関係を密にしていけるよう、随時電話等でご様子を報告させていただいている また、混乱が見られる時など、ご家族様の協力をいただいている	○	無理のない範囲でご家族様と共に過ごせる時間を持っていただくようお願いしている また、施設の行事への参加を促している 家族と共に過ごせる場をもっと多く企画していきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	認知症を発症し、一緒に生活する事が困難となったご家族様の状況を理解し、離れて生活している中でも、定期受診はご家族様の役割とし、なるべく面会に来ていただけるような環境を作っている	○	いつまでもより良い関係を築いていけるよう、面会時や家族会・行事の時などを通して、お話をさせてもらっている
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	無理のない範囲で外出・外泊にて、一緒に過ごせる時間を持つよう願っている	○	元々の家族関係によって、面会や行事への参加をして頂けない場合もあり、その方には職員からのフォローにより寂しい思いをさせない配慮が必要
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないよう配慮している 時間が許す限り、一人一人の対応に努めている	○	皆様が仲良くレクリエーションなどを通して、お互いの名前の確認し合ったり認め合ったりできるよう配慮している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	しばらくは「お便り」を発行している 入院の為退居された方のご家族には、電話で様子を伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様主体のケアが出来るよう、希望や意向については伺っている 困難な場合はご家族様から情報を得、職員全員で検討する	○	全職員で検討する時間を作るのが非常に難しい 夜間のケア会議等で実施していく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式にて、再アセスメントを繰り返す ご本人の口から出た名前や場所等をご家族に聞き、どんな事を懐かしみ、出た言葉なのか支援できるようにしている	○	どんな小さい事も聞き漏らさず、本人の訴えたいことは何かを調べ対応できるよう努力していきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	モニタリングを繰り返すことにより、現状を把握し、サービス方針に反映させている	○	異変を言葉にできない場合も多い為、表情や動きにて判断できるよう、職員一人一人がしっかりと把握していくことが必要と考える
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向・家族の思いをなるべく聞き出せるよう関係性の構築に努め、介護計画に反映させている また担当職員の思いや意見を重視し、参考になっている	○	本人から具体的な意向がでる場合が少ない為、職員の目からみて代弁しているケースが多い
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しやモニタリングは定期的に行っているが、急激な変化が生じた際（脳梗塞発症・骨折等での退院後）には、医師や家族の意見を聞き、職員全体で対応を検討、プランの変更を行っている	○	状況の変化があった場合には、担当医の意見を聞くため、受診に必ず職員が同行するなど、情報の把握に努める

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤者が昼間帯、夜勤者が夜間帯の様子・気づき・行動等を記録し、その記録に情報の共有をすると共に、朝・夕の申し送り時には異変等の報告をおこなっている	○	体調不良や精神面での不調が続く場合は、介護計画の見直しにつなげる為、ケア会議を随時行う予定
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様の状況により定期受診等の付添の代行を行ったり、外出の支援を行っている また併設のデイサービスとの連携により、慰問や行事なども多く、普段出来ない経験も多く出来ている 混乱時などにも、場所・雰囲気を変える事で落ち着きを取り戻すことも多く見られる	○	法人の持つ多機能性を活かし、より、お客様やご家族様の要望に応じた柔軟な支援に努めていきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練時は消防署や防災関係事業所の協力をお願いし、講習や指導をお願いしている 社会福祉協議会と連携をとり、ボランティア講座実習の受け入れをしている 実際ボランティアの方々には、話し相手やレクリエーションの手伝いなど協力いただいている	○	今後も積極的に実習生の受け入れ等行っていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な場合は、他事業所のケアマネジャー・相談員との連絡、情報提供をしていく		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は不十分であるとする	○	今後権利擁護等、ご指導いただきながら協働していくよう努める
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在かかりつけ医は、ご家族に決めていただき、定期受診はご家族にお願いし、医師からの情報を頂いている 緊急時にはかかりつけ医への連絡、必要であれば受診対応を行っている 口腔ケアに関しては、歯科医の往診体制をとっている	○	今後、訪問看護導入の際に、ご家族様の意向を伺いながら、かかりつけ医との連携をさらに深め、適切な医療が受けられるよう努めていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	介護保険更新時には同行し普段の行動や言動などを伝えている 必要時は病院受診を勧める	○	ご家族にも現在の状態を把握していただけるよう、状況の変化や現状を伝えると共に医師との関係性を強めたい
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日中は併設のデイサービスの看護師に、必要に応じて相談及び状態を診てもらい、アドバイスを受けている	○	家族会にて、訪問看護師の派遣など今後の取り組みについて賛成者が多いことから、訪問看護導入の計画を進めていく
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	転倒骨折・脳梗塞・肺炎等で昨年は入院が5件あった。入院中は全職員が頻繁に見舞い、担当医や担当看護師から情報提供を受け、退院後スムーズに生活に戻れるよう支援している 特に認知症状の悪化が懸念される場合には、早期退院と受け入れの可能性を探り、出来る限りダメージを少なくする配慮をしている	○	病院側から、ご家族様と連絡が取りにくいとの指摘を受けることも多く、必要に応じ施設で対応をしていく
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	容態に変化があった際には、今後の方針について主治医の意見を伺ったり、ご家族様の意向を具体的にお聞きするよう努めている	○	主治医やご家族様との話し合いを持ち、終末期におけるご家族様の意向や、施設の方針を文書化し、職員全員での共有が急務と考えている 訪問看護師導入を計画している為、それを機会に整備していく
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期の対応は、職員一人一人の知識や判断力などが必須となってくる。家族や主治医を含めすべての職員がチームとして連携をとる重要性を自覚し、自らのスキルアップを心がけたい また法人としてもターミナルケアの勉強会を行うなど、職員の意識の向上に努めている	○	終末期に向けた話し合いや医療機関との連携が、今後の最重要課題であると考えている
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ代わる場合は、その事業所の相談員・ケアマネージャーに情報を詳細の伝え、ダメージを防止している	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを守り、個人情報の取り扱いには注意をしている	○ 個人記録やケアプラン以外の援助計画に関わる書類は、必要時には開示する旨お伝えしている
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定できるような言葉かけをしているが、漠然とではなく選択し自己決定し易いように声かけをしている	○ 常に思いや希望を出せる、くみ取れる環境作り、自己決定できる働きかけには留意していきたい
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れ自体は概ね決まっているが、本人の身体の状態・精神面等を考慮し、一人の時間も大切に頂き、一人一人のペースも大切に出来るよう心掛けている	○ お客様の希望や思いをもっともっと聞きだし、毎日为目标を持って過ごしていけるよう支援していきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理・美容院は、本人の希望に沿って近くの店で行きたい所を選んで行っている(職員同行) 髪型や化粧など、その人らしさを大切にしている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時にお好みを伺うよう声を掛けさせていただいている 食事の準備・片付けは毎日一緒におこなっている 誕生日会や行事食については、ご本人の希望をお聞きし準備をしている また月に一度程度外食も楽しんでいる	○ 準備・片付けなど声かけしなくても手伝って頂ける時もある 出来る方は、声かけによって積極的に得意な分野にてお手伝いをして下さっている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物・おやつは、好みの物を随時お伺いしている 現在日常にお酒を飲む方はおられないが、バーベキューや流しそうめん・敬老会等、行事にて飲める方にお勧めし楽しまれている	○ コーヒー・紅茶・お茶など好みの物を選んでいただく機会を毎日作っている 個人的には好みのジュース等用意し対応している

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、随時誘導する事で、日中はパットの使用はあるものの、おむつの使用はほとんどない。夜間も随時声を掛けさせていただき尿意の訴えない方でも自力排尿を促し、失禁を減らせるよう心がけている	○	トイレにて排泄できることが一番大切であると考え、紙おむつやパットの使用は必要最小限にするための努力をしていく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は午後が入浴時間となっている。本人のご希望にあわせ入浴していただいている。たまに 仲良しさん同士で入浴されることもある。	○	比較的その方のご希望にあわせ入浴できているが、入浴時間が限られてしまっている。現在お客様から要望はないが、就寝前の入浴の可能性も探していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お一人お一人の生活のパターンにあわせ支援している。現在日中は殆どの方が居間に集まり、活動的に過ごされている 夜間は、20時頃には休まれる方が多く良眠されている	○	眠れない時は“寝ること”を進めず、気分転換を図るようにしている 日中眠ることが少ないので入眠は比較的早い。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人お一人に得意分野があるので、その方の得意なことをやっただけよう配慮している また、趣味や特技を活かしながら、制作活動やカラオケを楽しんだり食事の準備などにお力を貸していただいている	○	お団子作りやたこ焼き作り餃子作りなど、皆で一緒に出来るようなことをたくさん提供していけるよう今後も心がけて行きたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお客様の状況から現金を所持管理しているお客様はいらっしゃらない。施設で預かる形をとりながら、食べたいもの、飲みたいもの、欲しいものを一緒に買いに行き、自分で支払いをするなどの支援・機会を多く作っている	○	外食や外出時、買い物をさせていただく機会を設けてはいるが、個々のお客様のお買い物デーを設けるなどして充実させていきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近隣への買い物、四季を感じていただけるような全員での外出行事など多く取り入れるよう心がけている	○	買い物などなかなか決まった方々になりがちで、全員とかわれていない。無理強いする事のない範囲で、多くのお客様とかわっていききたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見や外食、ドライブ、他施設の祭り見物など、なるべく対応はしているが、一人ひとりの思いにお答えする事はできていない	○	ご家族様の協力を得ながら、もう少し遠出の外出などが出来ると、喜びや生きがいにつながっていくと考える

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話は、要望があれば随時対応している また、年賀状や暑中見舞など職員が協力しながら作成している	○	ご家族様からの電話も多みたいへん嬉しく思っている ご家族様からの便りなど、繰り返し楽しめるので、協力をお願いしていきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様以外の知人友人の訪問も多くあり、和やかな時間を送っていただいている方も多い いつでもきていただけるように、歓迎の気持ちをあらわしている	○	たくさんの方々の訪問が、生きる活力になっていくと思われるので、受け入れる姿勢や雰囲気継続していく
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人挙げて、身体拘束ゼロに向けての勉強会・研究会を設け、職員全員が周知・認識している それに伴う転倒等のリスクは否めないが、入所時、ご家族様へは説明をし、ご理解を頂いている	○	言葉や態度による拘束も絶対にあってはならないことと認識し職員全員で徹底していく
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は拘束であるとの意識を持ち、日中は一切の施錠をしていない 夜間帯、職員が一人になる際には、防犯の為、一階の入り口の施錠はさせていただいている 完全開錠のためのリスクは否めないが、デイサービスの職員と共に見守り、近隣の方へも理解と協力を頂けるようお願い	○	施錠はしないが、玄関の開扉の際にチャイムが鳴る。これも拘束に当たるのかとの論議もあるが、お客様の安全確保のため、現在は継続している
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、管理者含め4～5名の配置で、お客様の所在や様子の把握に極力努めている また、夜間は一名の夜勤者により安全の確保に努めている	○	鍵のかかっていない状況の中で、過去に離設事故が起きている 今後も離設事故には十分注意していく
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状況や認知症から派生する問題点は様々である 画一的な支援でなく個人に即した取り組みをしている 特に異食の心配のある方にはもっとも注意を払っている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人研修等で、知識の獲得に力を入れている 転倒・窒息・誤薬など職員の配慮で防げるものが多い 事故報告書やヒヤリハット報告書などで、同じ事故が起きないよう対策を皆で検討している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	併設デイサービスの看護師を中心に救急対応の研修を随時行っている またマニュアルを作成し、随時確認している 法人研修の中で、救急救命の講習を行っている	○	一度受けただけでは忘れてしまうので、定期的に行うことが必要であると考えている
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方が出席する運営推進会議などで、協力を呼びかける機会を作っている また、防災訓練では、避難訓練や消化訓練を行い、その際近隣の方にも参加を呼びかけている	○	車イス対応の方が増えている。避難訓練は定期的に行ってはいるものの、居室が2階にある為、エレベーターが使えないことを想定しての訓練がままならず、職員は不安を持っている 今後夜間帯の少人数での訓練が必要と考える
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時や家族会などで、常に起こりうるリスクについての説明を行っている ご家族からも『ある程度のリスクは覚悟している、あまり神経を使わないように』などの言葉を頂いている	○	居室内でのリスクについてはプライバシー保護のため対応できない場合もある事などは了承いただいているが、重度化してきている現状を考えると、よりきめ細やかな取り組みをしたほうが良いと考えている
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に体調の変化や異常の早期発見に努め情報の共有をしている また、デイサービス看護師により、定期的に状態の把握に努め、異変が確認された際には、速やかに家族への連絡や受診等対応している	○	血圧・体温の測定、水分食事量の把握、排泄の有無など、全職員で確認している
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬についての説明書きを職員で確認している 服薬時は必ず職員が見守り確実に飲んでいただくよう支援している	○	浮腫や便秘、高血圧の方など、次回受診時には現状を家族にお伝えし、また職員が直接受診に付き添い、主治医に伝わるよう配慮している
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取や、繊維質の多い食品の摂取に心がけている また、毎日の散歩や体操で、便秘予防に努めている	○	特に水分摂取量には注意をしているが、年齢的に便秘気味のため、薬の処方を受けている方も多い。 なるべく自然排便を促せるよう配慮していきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは、職員介助または見守りにて行っている 週に一度の歯科衛生士の訪問、月に一度の歯科医師の受診を受け口腔状態の維持向上に努めている	○	口腔内の清潔の維持が健康面に大きな効果があり、比較的体調を崩すことが少ない。今後も継続して努めていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や能力に応じた、バランスの良い食事の提供を心がけている 水分量のチェックは必ず行い、一日を通して必要量摂取していただけるよう支援している	○	お一人お一人の歯の状態、嚥下の能力等を考慮し、食べやすい大きさ、状態に配慮している 食欲のない時には、代用食として常にプリンやヨーグルト・ゼリーなどを用意し、カロリー・水分が摂れるよう配慮している
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人による感染症の勉強会は随時行われ、施設としての予防・対策のマニュアルを作成し周知徹底している 外出後のうがい手洗いの励行、布団干し・シーツ交換・室内の清潔維持・室温湿度の調整を随時行っている インフルエンザ予防接種をご家族により必ず行っている	○	インフルエンザ予防接種は重度化しないため必ず行っていた 食品による感染を防ぐ為、食材の管理・使用後の調理器具の消毒などを徹底している
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の衛生管理、調理前の手洗いの徹底、安全で新鮮な食材の購入・保存に努めている	○	食材の買出しは週に3回となっているが、特に夏場など、生もの等の買出しは随時行っていくようにしている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームは2階となっているが、一階玄関は常に開放的な雰囲気を出し、玄関横には季節の花々が咲いている 2階玄関は下駄箱や花瓶にかけた花などで、家庭的な雰囲気が出るよう心がけ、気軽に出入りが出来るように努めている	○	2階の玄関が狭くゆったりとした雰囲気がない 壁面などを利用し暖かさを出して行きたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂には、イス・テーブル・ベンチやソファ、こたつなどが配置され、自由にご利用いただいている 壁面には外出時の写真や家族の写真、皆で作った壁面飾りや季節感のある飾り、テーブルには季節の花を飾るなど、居心地の良い生活空間づくりに努めている	○	トイレが3ヶ所あるが、全てのトイレに窓が設置されていないため開放感がない
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには、ベンチやソファ・こたつ等が設置されており、お一人で、あるいは、気の合ったお仲間それぞれ思い思いの時間を過ごしている	○	こたつやソファを中心とした和室の居間に皆さんが集まり、職員と共に和やかな時間を過ごしていることが多い。 一人になりたい時を大切にしていける配慮を心がけたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時ご家族様に使い慣れた家具等の持ち込みをお願いするが、あまり持ち込みされていない。職員はその方にとって安全で且、居心地が良い環境とは何なのかをお客様と一緒に探りながら工夫している	○	生活感のあるその方らしい居室とはなっていないと考える 今後も、その方にとって落ち着ける空間作りに努めていきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の清掃時には必ず窓を大きく開け換気に努めている。比較的空気の通りやすい設計となっているが、トイレに窓がないため注意したい 高齢であり体温調整がむずかしい為、居室の温度調整は状況に応じ職員がこまめに支援している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、バリアフリーの共有空間、エレベーターの設置など安全な環境づくりに努めている また車椅子を使用の方も、共有スペースが広く、自由に移動が出来る	○	2階グループホーム玄関を出ると、狭い踊り場とすぐに階段となっているため、車イスでの移動に介助が必要となる
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立支援を心がけているが、一人ひとりの判る力を最大限に生かした支援となっていないと考える	○	職員の都合や時間に追われる支援でなく、一人ひとりの力を活かし、ゆっくりと待てる支援を心がけていきたい
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に花壇や野菜作りの畑があり、季節ごとの花を栽培し楽しんだり、野菜の収穫の喜びを職員と共に感じ、収穫した野菜を使っての料理を共に楽しんでいる また、草取りなども率先してやっていただいている	○	グループホームスペースが2階のため、一階に下りるには職員の付き添いが必要なため、自由に楽しむことができない 広い駐車場を利用して、戸外での食事や行事を楽しんでいただいている

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

法人上げて取り組んでいる理念 『自らが受けたいと思う医療と福祉の創造』 を職員全ての目標とし、サービスの質の向上に取り組んでいます。お客さまの生きる力を引き出せるよう、外出行事や季節の行事を多く取り入れ、また多くの慰問団体の方々が訪れて下さるなど、たくさんの楽しい時間を持っていただいております。

併設のデイサービスと連携をし、看護師はじめ全ての職員で、温かく見守り、安心して穏やかに、その人らしく暮らしていけるよう支援しています。また地域密着型施設として、地域住民に親しまれ、災害時等にも協力体制を取れるよう、地域との関係性を重要視しています。

そのため、多くの地域の行事に参加させていただいたり、事業所の行事にお招きしたり、認知症の勉強会を行政の協力の下、開かせていただくなど、地域との連携の強化に努めています。そんな中で、地域の方々によるボランティアや慰問なども増え、利用者が地域住人の一人だとの意識を皆で共有できるようになっております。